

令和6年9月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	要 旨	答弁者
11	18	鈴木 弘 議員		1 / 1
発言項目		要 旨		答弁者
1 高齢者の幸福度 (ウェルビーイング) を高めるために		<p>富士宮市の高齢者人口(65歳以上)は、ご長寿いきいき富士山(3776)計画では令和5年で39,250人(高齢化率30.6%)となっている。富士宮市の令和4年度の健康寿命(平均自立期間)は男79.8歳、女84.4歳と発表された。高齢社会対策大綱に「高齢者の体力的な若返りも指摘されている現在、新たな高齢期像を志向すべき時代が到来しつつある」とある。そこで伺う。</p> <p>(1) ご長寿いきいき富士山計画によると39,250人の内要介護2以上の認定者は3,292人(8.4%)となっている。各年代における要介護2以上の認定を受けている人の割合を伺う。</p> <p>(2) 健康寿命の範囲の人々は地域包括ケアシステムの対象になるのか伺う。</p> <p>(3) 「ご長寿いきいき富士山計画第2章4 第9期に向けた課題」の項に「高齢者が役割をもって地域社会の中で活躍できる場を充実させていく取組を一層支援していくことが必要」とあり、「シルバー人材センターの支援」「地域活動団体の活動支援・育成」等、書かれている。その他どのような場が考えられるか伺う。</p> <p>(4) 65歳以上の就業者は増加しており、その人たちが退職した時、地域になじめない人が増える可能性がある。仕事を継続している間に地域に徐々になじめるような仕組み作りも必要ではないか。</p> <p>(5) 北欧では「福祉は住宅に始まり住宅に終わる」と言われているという。高齢者が住みやすい高齢者住宅を用意していく考えはあるか伺う。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長
2 木造住宅耐震化プロジェクト「TOUKAI-0」について		<p>木造住宅耐震化プロジェクト「TOUKAI-0」は令和7年度が最終年度とされている。そこで伺う。</p> <p>(1) 平成30年度に耐震性のない住宅が約6,490戸あり、令和7年度末に2,430戸にする計画だが、現在の状況を伺う。</p> <p>(2) 「わが家の専門家診断」を受診して耐震性があると判断されれば、6,490戸の数字が減少するのか伺う。</p> <p>(3) 目標に達しても約2,430戸は残る。このことに対してどう対処するのか伺う。</p> <p>(4) 「TOUKAI-0」総合支援事業としてのブロック塀等の安全確保事業費補助金制度について伺う。</p> <p>① 危険なブロック塀を把握しているのか伺う。</p> <p>② ブロック塀の耐震改修をどのように推進しているのか伺う。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長
3 道路脇の除草について		<p>(1) 道路脇の草刈りの基準はあるのか伺う。</p> <p>(2) コンクリートとアスファルトの境目に塗布型防草対策(クサデナーズ)を施工してある例がある。市として草刈り以外の除草方法を取り入れているか伺う。</p> <p>(3) 除草などに苦勞することの解決のため、市内事業者に広くアイデアを求めることは考えられないか伺う。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長